日刊工業新聞

年月日	26	10	01	ページ	05(2)	NO.	

発見！自分の可能性

進学希望の学生たちへ

ＪＡＩＳＴで研究漬けの毎日

北陸先端科学技術大学院大学
先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士前期課程２年
中野 悠氏



高専卒業時の進路の選択肢は幅広い。就職だけでなく、本科から専攻科への進学、大学編入、専攻科から大学院への進学などさまざま。高専から大学、大学院への進学という道を選んだ2人に、選択の理由、背景や将来の夢、経験を基にした後輩へのメッセージなどを語ってもらった。

長岡高専物質工学科で光触媒反応の速度論解析をテーマに研究し、それを継続する形で専攻科に進んだ。さらに北陸先端科学技術大学院大学（ＪＡＩＳＴ）に進学し、効率的に大量データを取得できるハイスループット実験を用いて光触媒の研究を行っている。

理数系科目が好きで、将来の仕事をイメージして高専を志望した。高専は5年間で卒業して就職することもできる。大学に編入する場合に比べて、高専では早い段階から専門分野を学び、もう少し自分のやりたいことを考えられる。

長岡高専の自由な校風のおかげで、勉強、部活、アルバイトなどいろんなことをメリハリを付けて頑張る習慣が身に付いた。入った研究室でも、先生と自分の考え方が合っていた。そのため、本科卒業時には大学に編入するよりも当時の研究室で研究を続けたいと思い、高専の専攻科に進学した。

専攻科在学時には、研究室の技術シーズを社会に役立てられないかという考えから、同期の仲間3人で起業した。企業向けに研究室のシーズ技術を活用したシミュレーションソフトの提案や、プログラミング講座の開催を行っている。講習会などを通して企業との接点を持ち、社会に触れる経験ができた。

高専専攻科からＪＡＩＳＴに進む際は、協定校推薦を利用した。オンサイトスペシャルウィークスを利用して研究室を訪問し、教授と研究内容について話した。ＪＡＩＳＴは高専に比べて高度な共用設備が整っており、研究漬けの毎日を送っている。

ＪＡＩＳＴ修了後の進路選びでは、培った経験を生かせることを重視した。内定している企業は触媒反応の研究に力を入れており、これまでの経験を生かし、触媒技術を用いて社会に貢献したい。

高専生にはさまざまな可能性がある。進学であれ就職であれ、自分でとことん考えて納得できる進路を選んでもらいたい。先生方の心強いサポートも味方になる。

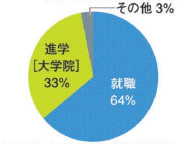
専攻科から大学院へ進学

2025年度、国立高専51校の進学先上位23校

大学名	(人)
東北大院	55
九州大院	44
筑波大院	36
奈良先端大院	33
東京科学大院	27
九州工大院	26
北陸先端大院	25
長岡技科大院	24
北海道大院	21
大阪大院	19
豊橋技科大院	18
広島大院	15
金沢大院	9
東京大院	8
熊本大院	8
早稲田大院	6
名古屋大院	6
神戸大院	5
山口大院	5
群馬大院	4
横浜国立大院	4
福井大院	4
京都大院	4

2026年5月1日現在、学校名は略称
国立高専機構の資料を基に日刊工業新聞社が作成

2025年度の進路状況（専攻科）



左の円グラフとともに国立高専機構の資料を基に日刊工業新聞社が作成

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社